

## 江戸の流行歌

### 「端唄」を体感

28日に催し



江戸の流行歌「端唄」の普及に努める三味線奏者で作曲家の本條秀太郎＝写真＝が二十八日午後二時から、東京・紀尾井小ホールで「端唄～江戸を聞く～からくりの紅葉」を開く。本條は、武士や町人にもてはやされた端唄を通し、「のぞき絵～端唄 江戸のファッション」と名付け、江戸人の暮らしぶりや豊かな情緒を見せる。

上演曲目は古典「銀のピラピラかんざし」、秀太郎作曲の「軒の燈籠」「花火」ほか。本條は「端唄は粹で洒脱な江戸庶民の暮らしの中から生まれた、最も身近で洗練された室内歌曲。味わい深い歌詞と音色で江戸を体感していただければ」と話す。

傳燈樂舎＝☎03・3303・5

180。